

2003年から相模原市の橋本でひっそり始めたアフリカ支援活動も5年目を迎えるようとしています。

日本でのアフリカ理解への活動で得た資金をもとに、エイズ孤児団体への衣服の寄付、文房具の寄付等を行ってきました。2006年には、農村部に住む女性5名それぞれに8000円ほどを一年間融資するマイクロファイナンス活動を始めました。2008年には、小学校と高等学校に市内の中学校から譲って頂いたボールを寄付しました。今回は、今年9月にケニアに里帰りした夫からの報告を基に、活動がどのように評価されているのかをお伝えしたいと思います。

2006年9月に融資を始めて2年たちました。5人の女性たちはいずれも子供を5～8人抱える家族のお母さんたちです。共通するのは、夫がいないか、いても仕事がないゆえに現金収入がないことです。

融資にあたって、母さんたちはいろいろな事業計画書を作成してきました。「牛を飼い、ミルクを売る」「卵を売る」「バスに乗って作った野菜を隣町へ売りに行く」等々。8000円の投資は、一年後には、融資を受けたすべてのお母さんたちの定期的な収入を得られる事業へとなっていました。一人のお母さんは、お店を持つことさえも成功しました。8000円の元手を回収した後は、そのまま別の人に貸し付けました。

相模原市内中学校から譲り受けたバレーボールとサッカーボールは4ヶ月かかって船便でケニアの小学校と高等学校へ寄付されました。大規模校ながら、もともと学校が所有していたボールはわずか3個。日本から50個のボールが届いたとあり、子供たちだけでなく先生や地域の大人も大喜びでした。夫を迎えた感謝の会のあと、そのボールを使った「ガスパレイ杯」(=夫の名前です)が行われました。

2007年末の暴動から半年以上たちました。ケニアの人々は、その「あまりにも大きい代償」に直面する日々が続いています。経済の落ち込み、国内外の「政治不信」。しかし、いつどんなときも「家族を思う気持ち」は世界共通です。

いろいろな方のお力でこれまで、沢山のケニアのお母さんたち、子供たちが、「今ある状況を少しでも変える」ことが出来ています。それは本当に小さな変化かもしれませんが、着実な変化であることを励みにこれからも活動を続けていきたいと思っています。



「感謝の会」でスピーチをする夫・ガスパレイ



「感謝の会」に集まった子どもたち



こんな青空の下、ガスパレイ杯が開かれた



ガスパレイ杯・サッカー